

エルサルバドルのラテンな暮らし



～わたしがごはんから教わったこと～



現地での活動手洗い教室



今回の食:
フリホレース
(甘くない豆の煮もの)
プティン
(パンプディング風のおやつ)
コーヒー

2019年

9月26日(木)

18時30分～20時

場所：CODE事務所

参加費：食事代800円

語り手：岸本くるみ

(CODE理事、神戸学院大学実習助手)

申込方法：E-mailで①氏名②フリガナ③所属④連絡先をご記入のうえ、件名を「食と国際協力参加希望」として下記メールアドレスまたは電話からお申し込みください。

CODEは毎月「食と国際協力」という“食”を通して世界の国々の文化や暮らしについて学ぶ場をつくっています。

2001年、エルサルバドルでM7.6の地震が発生し、CODEは現地のYMCAや海外研究員のクワテモックさんを通じて、住民による仮設住宅建設の支援を行いました。

今回は、6月にCODE理事として新任され、青年海外協力隊としてエルサルバドルに滞在していた岸本くるみさんをお招きします。



↑地震により倒壊した家屋

語り手

岸本くるみ

2009年JICA青年海外協力隊として、何も知らずにエルサルバドル国へ。現地の防災NGOで防災や災害時救援活動、手洗い教室などのお手伝いをしながら、ホームステイ先の家族と暮らす。日本に帰って摂食問題と付き合う。人と防災未来センター資料室と経て、現職。



エルサルバドルは中米にあり、面積は四国ほどの小さな国です。災害が多い地域といわれますが、おいしいコーヒーの山地でも有名です。今回は以前より現地で行われていた防災の話、エルサルバドルの日常、文化、習慣、食と命の話などを語っていただきます。

CODE海外災害援助市民センター

〒652-0801 神戸市兵庫区中道通

Tel: 078-578-7744 Fax: 078-574-0702

Email: info@code-jp.org

